

恩師梶山藤子先生に感謝する日々を過ごして

梶山女学園大学 名誉教授 加藤雪枝

恩師梶山藤子先生は平成19年1月30日6時7分、93年の生涯を閉じられました。翌31日御葬儀（喪主はご子息梶山女学園梶山正弘理事長です）がしめやかに行われ、多くの教職員、卒業生と共に別れを惜しましました。

昭和24年梶山女学園大学家政学部は新制大学として発足しました。家政学部被服学科の構想は、新制度のため参考とするものがなく、先生の広い人脈を通して収集された情報とアメリカの家政学などを参考にして推進されました。被服学科には4つの学問分野があり、その中の1つが梶山藤子教授の意匠色彩学研究室でした。これは、当時として珍しい設定であるといわれました。昭和52年大学院修士課程家政学研究科被服学専攻が開設され、大学院において、意匠色彩学の分野は重要な柱となっていました。

先生は昭和47年日本色彩学会創立時からの会員、東海支部幹事であり、ご退職後は名誉会員でいらっやいます。私がはじめて先生にお目にかかりましたのは、梶山女学園大学入学時であります。私が学んだ昭和30年代初期のカリキュラムには、色彩学の講義と色彩学実験があり、講義は須賀太郎先生（日本色彩学会東海支部初代支部長、名古屋大学工学部応用物理学教授）、実験は先生よりご指導を受けました。今日振り返ってもその内容は極めて斬新で魅力的なものでした。現在、家政学部被服学科は生活科学部生活環境デザイン学科と改められましたが、先生の色彩学や色彩学実験は、今なお健在に機能しています。色の重要性について将来を見据え、科目の1つの核に位置づけられた高い見識と時代を正確に読み取り、順応する能力がいかに卓越したものであったかを推察することができます。ここにきて、時代が追い付いたともいえましょう。このような教育と精神を慕い、これらを受け継いだ多くの卒業生が、社会で活躍しています。

梶山女学園大学内にありましては家政学部長、大学院家政学研究科長などの要職を歴任され、また、短期大学視学委員（文部省大学局）も勤められました。

研究および学会活動では、「被服地の色彩物理学的特



梶山藤子（1913年5月3日～2007年1月30日）
2007年2月27日正五位に叙されました

性に関する研究」の一連の研究で日本家政学会賞を受賞、「被服の色彩・衣服に関する研究」で日本繊維製品消費科学会学会賞・論文賞を受賞されています。その他、日本繊維製品消費学会功労賞、日本家政学会功労賞、勲三等瑞宝章などを受賞され数々の輝かしい功績を挙げられています。社会活動では長い間、奉仕活動にも力を注いでおられました。これら数々の業績より先生がいかに人間性豊かな優れた教育者であり、研究者であったかを知ることができます。

昭和37年より先生が昭和61年に梶山女学園大学家政学部被服学科を定年退職されるまで、私は先生の意匠色彩学研究室に所属して24年間、生活、教育、研究面よりご丁寧なご指導を賜り、充実した日々を過ごさせていただきましたことに感謝しますと共に誇りに思っております。先生の日常生活は極めて規則正しく、健康的なものでした。あたたかい眼差しと笑顔で、人の心を読み取り、生活、教育、研究上の難題も頭の回転の速さでその人毎によいと思われる解決案を見出され、私どもにお示しいただきました。ご退職後もご自身のことよりも、私どもへの気遣いや励ましのお言葉をいただきましたことを感謝しております。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。